

特集：IEC リスボン会議

4月12日～14日にかけてポルトガル・リスボン市において、国際鶏卵委員会（IEC:International Egg Commision）の春季会議が開催されました。今回も世界各国から養鶏関係者が集まり、「マーケティング（消費者の視点）」、「鳥インフルエンザ」、「鶏卵加工」、「動物愛護」の分野について講演が行われました。

また、個別の小委員会で「鳥インフルエンザ」、「鶏卵のタンパク質の機能性」、「鶏舎システムの現状（動物愛護）」について情報交換が行われました。日本から当協会のメンバー中心に13名の参加となりました。今回の会議に参加された日本養鶏農業協同組合連合会 佐藤次長より、特に関心の高かった鳥インフルエンザ関係の講演について報告をもらいました。またこの機会に、ロンドン近郊の養鶏場、スーパーを訪問されたので、その際の報告も頂戴しました。

IEC リスボン会議に参加して

日本養鶏農業協同組合連合会 佐藤豊

今回は、日本とは歴史上でも、また文化的にも大きなつながりのあるポルトガルでIECが開催され、参加させていただきました。春季会議は、秋に開催される会議よりも日程が短いですが、内容はその分濃いものとなっているように感じられます。それに私の日頃の不勉強も重なり、話についていくことに精一杯でした。

そんな中、会議内容の一部をご報告させていただくわけですが、まずその前に昨年の秋季会議に関する記事が、[本誌（平成26年10月号）](#)であったのを覚えていらっしゃるでしょうか？ 同会議に出席された株式会社フュージョン赤木社長の記事ですが、私も参加前に参考とさせていただきました。（もし、読まれていない方がいらっしゃいましたら、ぜひお読みになってみてください。非常に参考になると思います。）といたしますのも、これから話をさせていただく内容は、養鶏産業が抱える問題の一部分です。同社長が書かれておりますようにIECのテーマは「**継続（持続）可能性**」です。それを主体としていただいて、これからご報告いたします内容に触れていただければと思います。

会議の一部から現在話題となっている鳥インフルエンザ(AI)について講演がありましたので、ご報告したいと思います。

現在アメリカでも昨年末からブロイラー、七面鳥を中心に約 3,000 万羽（平成

27 年 5 月 10 日現在) の被害が出ている状況ですが、ヨーロッパにおいても重要な課題であることに変わりはありません。むしろ、鶏舎システム等の観点から対策をどのように行うべきか苦慮しているようです。

(1) オランダの事例

まず、オランダでは **2003 年に H7N7 型の AI** が発生し、養鶏産業のみならず輸出産業にも多大な影響をもたらしました。(オランダは輸出も非常に多い)

当時、**241 農場・採卵鶏 3,000 万羽もの殺処分**を行い、被害額は同疾病を抑え込むための費用として **2 億 7,000 万ユーロ** (日本円 **353 億 4,570 万円** <当年平均 1 ユーロ=130.91 円>)、**輸出停止に伴う被害は 5 億ユーロ** (日本円 **675 億円** <同>) にも及んだとのこと。

参考として、同国の畜産業と採卵養鶏の状況について、下の表でご紹介します。

資料.1 <オランダの畜産業>

畜種	牛	豚	馬	羊/山羊	鶏
飼養頭羽数	400 万頭	1,200 万頭	32.5 万頭	150 万頭	10,000 万羽

資料.2 <オランダの採卵養鶏>

飼養羽数 (千羽)	飼養形態比率 (%)			生産量 (トン)	消費量 (個/年)	輸出卵 (トン)	輸入卵 (トン)
	cages	barn system	free range				
32,675	6.6	69.2	24.2	625,000	195	410,000	130,000

資料.2 の表は、昨年 10 月の IEC にて公表された資料の抜粋です。いかに同国にとってインパクトの大きいものであったかお分かりになると思います。

その後、2005~2007 年にかけて世界各国で H5N1 型の発生、と LPAI (低病原性 AI) の偶発的発生という過程の中で、後述する AI 管理体制の整備を行ってきたという背景があります。また、地理的な要因も関係しているようです。

資料.3 <オランダと日本・九州との比較>

国	人口 (万人)	国土面積 (km ²)	畜産に供する面積 (km ²)
オランダ	1,686	41,864	34,000
日本・九州	①1,328	②42,194	-

①総務省「国勢調査」②国土地理院「県別面積」
日広 1505- 2 -

オランダは、世界でも人口密度の高い国としても知られますが、畜産も同様と言えます。

(2) オランダの AI 管理体制

1) 対策適用基準

適用される基準は以下の通りです。

①OIE 基準 ②EU 域内の輸出入基準 ③国内法 ④危機管理計画

枠組みの大きさの順としては①から始まり④となるわけですが、重要性の高いものは④危機管理計画であり、発生時には迅速にまた的確に行動する必要があることから、そのための管理計画は策定しておくべきとのこと。

2) 発生時の管理手法

AI が発生した場合の管理は、基本として**移動制限**（家畜・飼料・生産物・畜ふん・車・人）、同時に**疫学検査体制**、**危機管理組織設立**、**制限区域を含む必要な措置の実施**によって管理されます。

オランダでは、移動制限という措置を行うための法的根拠となるものは、「閣議決定」によってもたらされるという法整備となっているようです。

3) 発生時の地域区割りによる管理

まず、計画として国土を 20 の地域に区割し、**発生時に制限等の管理**をおこなうこととなっています。区割りにあたっては、面積、家禽の飼養羽数そして地理的条件（自然の境界線）に基づいて行われます。

当該区割りについては、発生時のみに適用されるものであり、また発生状況に応じて、区割りした地域の集約化を行うことによって管理体制を再整備することもできるようです。

4) LPAI と HPAI（高病原性 AI）発生時の対応

・LAPI の場合

- 1km または 3km の制限区域を設ける
- 家禽の殺処分、農場の洗浄と消毒
- 感染した家禽と生産物のトレース
- 疫学的調査
- スクリーニング検査
- 関係機関（EU、OIE、貿易関係先等）とのコミュニケーション

- ・ HPAI の場合
 - 全国的措置として
 - 移動禁止
 - 禁猟
 - 家禽飼養者の訪問禁止
 - すべての家禽を屋内に退避
 - 家禽の殺処分、農場の洗浄と消毒
 - 感染した家禽と生産物のトレース
 - 疫学的調査
 - スクリーニング検査
 - 関係機関（EU、OIE、貿易関係先等）とのコミュニケーション

以上が、オランダでの管理体制の概要となります。

特徴的なのは、**HPAI の場合にすべての家禽を屋内に退避させる**ことでしょうか？ 前出の資料.2 にあるようにオランダでは、ケージの割合が少なく、フリーレンジが 2 割以上あることが背景のようです。しかしながら現段階で、鶏舎システムの違いによって LPAI と HPAI の感染リスクがどのような状況で、どの程度あるかが明確になっていません。

今回の発表においては、あくまで現時点で把握出来ているデータとして、①ここ 10 年間でみた場合に野鳥の LPAI 感染は増加していること、②フリーレンジでは HPAI の感染よりも LPAI の感染が高いこと、③屋内と比較したときに野外での感染リスクは屋内の 11 倍であることが挙げられております。また、④小動物への対応も十分考慮するべきであることも述べられており、正確な対応を行うためのデータとしては、これから集約されることになると思います。

いずれにせよ、この問題は養鶏産業にとって重大な影響を及ぼします。そして現時点では予測は出来たとしても、予見できるものではありません。そのため早期警報システムの構築、危機管理計画、補償制度の確立が必要であると言われておりましたし、私たちも今後さらに産業全体で、システム構築や制度策定等に寄与していかなければならないという思いを強くした講演でした。

イギリスの養鶏場訪問とスーパーマーケット視察

続きまして、IEC への参加以外に大先輩のご厚意により、イギリス・ロンドン近郊の養鶏場訪問に同行させていただくことが出来ました。また、ロンドン市

内の一部スーパーの鶏卵売場を視察してまいりましたので、ご報告いたします。

まずは養鶏場の視察です。ロンドン市内から車約 1 時間半、距離にして約 80km のところにある養鶏場を視察。当該農場は、50 万羽を飼養し、2000 年以降伝統的なケージ飼いからエンリッチケージへシステム移行しています。その際に投じた額は、600 万ポンド（日本円 9 億 8,000 万円 < 2000 年平均為替 1 ポンド = 163.31 円 >）だそうです。



次に GP センターです。こちらも 450 万ポンドの投資（PV システム含む）で更新した施設です。インライン GP センターで、1 日に 100 万個の処理が可能な設備です。日本とは異なり洗卵設備がないなど一概には言えませんが、自動化されており、人員が非常に少ないという印象です。また、照明は赤外線センサーが付きで、人の動作等によって照度が自動的に変更されるシステムとなっています。

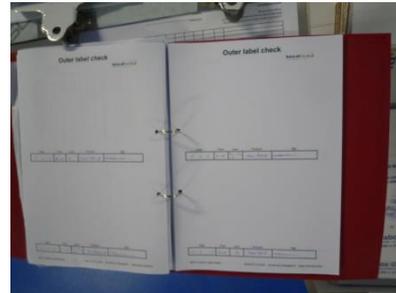
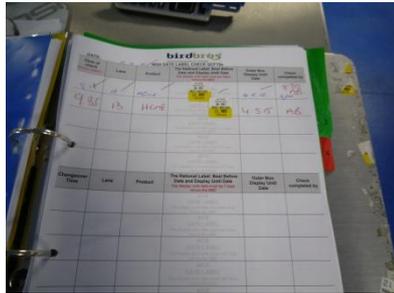
右の写真は、選別されトレーに乗せられた状態の卵です。洗卵されていないので当然ですが、写真のような状態で段ボールに詰められます。下の写真は、パック卵。



賞味期限：産卵日から 27 日



トレサビリティについては、システム上で管理していますが、原料卵のロット毎にデータラベルがあり、その原料卵と製品の整合性を担保するため、写真のような台帳で管理しています。左の写真がパック、右が外箱の台帳となっており、パックは賞味期限ラベルを、箱は外装ラベルを貼付し、保管しています。



最後に右下の写真は、スーパー ([Morrisons Camberwell](#) 店) での陳列の様子です。それを棚割り表にしましたのでご覧ください。ほとんどの棚は、フリーレンジとなっており、価格もいい値段だと思います。(この時点の為替 1 £ = 189 円で計算してみてください。) また、ケージとフリーレンジの価格差もあります。生産コストの差のように思います。前述の養鶏場の方が言われていましたが、フリーレンジは労働コストが非常に高くなるとのこと。



【Morrisons Camberwell 店 卵売場 棚割り】

FR/M/12 £ 1.89		②FR/L/12 £ 2.29	FR/MIX/10 £ 2.75		FR/L/15 £ 2.00
FR/M/6 £ 0.99		FR/L/6 £ 1.29		①FR/EXL/6 £ 1.49	③FR/L/6 £ 2.00
C/M/6 £ 0.79	C/M/18 £ 1.59	FR/MIX/6 £ 0.89	C/MIX/30 £ 3.30	FR/M/15 £ 2.19	C/MIX/6 £ 1.46

凡例：FR(フリーレンジ) /M(Mサイズ) /12(個数)、Cはケージ
売場は非冷蔵で小麦粉売場に隣接

①



FR/EXL/6 £ 1.49

②



FR/L/12 £ 2.29

③



FR/L/6 £ 2.00

【農政関係】

・ TPP（環太平洋経済連携協定）関係

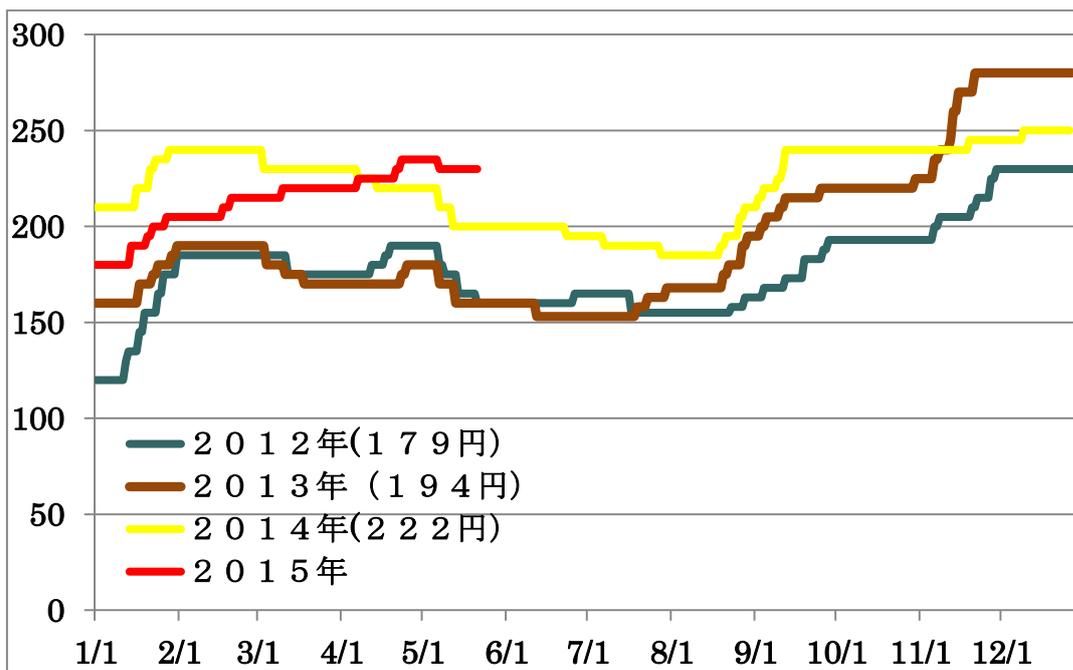
○5月14日に米議会上院は、TPPの交渉合意に不可欠な、大統領貿易促進権限（TPA）法案の審議入りに必要な動議を可決しました。この結果次の段階として上院ではこの法案の審議に入ることとなりました。上院は最終的にこの法案を可決すると見られますが、下院では反対派が多く、ハードルが一段高いようです。下院での審議が本格化するの、6月になる見込みです。

【相場動向】 過去 10 年間の 4 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	184	195	175
平成19年	168	175	165
平成20年	193	200	190
平成21年	173	180	170
平成22年	177	190	170
平成23年	245	260	240
平成24年	182	190	175
平成25年	172	180	170
平成26年	223	230	220
平成27年	227	235	220
平均値	194	204	190

平成 27 年 4 月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は 227 円となりました。これは昨年の 223 円よりは 4 円高くなり、先月の平均値 219 円よりも 8 円高くなりました。4 月の 227 円は過去 10 年間では、東日本大震災直後の平成 23 年 4 月の 245 円に次ぐ高い相場となりました。

【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 暦年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



【鶏卵関係主要計数】3月までの1年間計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	前年
平成26年							本年	前年
4月	8,767	99.7%	463	100.0%	784	95.4%	223	172
5月	8,849	106.7%	475	99.8%	856	98.7%	204	164
6月	8,838	106.5%	447	103.2%	850	103.0%	199	155
7月	8,866	116.8%	450	104.4%	809	100.6%	190	160
8月	7,280	102.2%	426	100.1%	801	102.4%	192	175
9月	8,831	105.5%	451	104.5%	826	107.2%	231	211
10月	8,497	109.9%	488	105.2%	819	96.4%	240	220
11月	8,136	98.7%	454	97.8%	843	101.2%	248	259
12月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
1年間小計	102,909	105.2%	5,579	101.5%	9,902	100.9%	214	208

雛餌付羽数の本年1月～4月分が修正されました。それでも全国推定値の雛餌付羽数は前年同期対比増加傾向になっています。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

価格差補填事業の26年度実績

数量単位：トン

月	平成26年度		平成25年度		前年対比
	人数	販売実績数量	人数	販売実績数量	
4月	1,007	174,712.773	1,104	180,797.289	96.6%
5月	1,007	181,142.362	1,104	185,070.271	97.9%
6月	1,007	171,968.767	1,104	176,177.634	97.6%
7月	1,007	177,272.465	1,104	178,489.762	99.3%
8月	1,007	173,189.482	1,104	176,530.141	98.1%
9月	1,007	173,567.237	1,104	173,994.685	99.8%
10月	1,007	179,743.624	1,104	183,565.842	97.9%
11月	1,007	174,990.350	1,104	180,238.108	97.1%
12月	1,007	186,627.330	1,104	187,856.563	99.3%
1月	1,007	176,005.048	1,104	178,174.390	98.8%
2月	1,007	165,395.166	1,104	167,749.294	98.6%
3月	1,007	181,029.288	1,104	183,082.082	98.9%
合計	1,007	2,115,643.892	1,104	2,151,726.061	98.3%

事業参加者との契約数量 (月当たり/トン)

平成 25 年度	164,822
平成 26 年度	160,792
平成 27 年度	161,936

・4 月の標準取引価格 217.86 円/Kg(補填なし)

(2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業

・4 月 23 日に 27 年度第 1 回目の委員会を開催して、27 年度の事業の予定について具体的な検討が行われました。今年度はネットを利用しての普及啓発を増やして行く方向となり、早速マイナビ社との打合せを行いました。

(3) 畜産収益力強化緊急支援事業対策 (畜産クラスター事業) 276 億円

平成 26 年度補正予算で全畜種計 120 億円(補助金ベース)が措置されました「畜産収益力強化緊急支援事業」につきまして、非常に多くのご要望が寄せられました。日鶏協取りまとめ分として、最終的に約 6 億円(補助金ベース、事業費としては約 12 億円)の割り当てを ALIC より受け、交付決定の通知を受けました。現在事業参加生産者の方々と具体的な事業の進め方について最終的な調整中です。

(4) 国産畜産物の新たな市場獲得のための技術開発促進事業 7 億円

平成 26 年度補正予算で全畜産物分野における国産シェアの拡大に向け、国産畜産物の加工原料への利用を促進するための技術開発を支援する事業です。日鶏協として 3 社の応募に対して交付申請がなされました。(支援：半額)

(5) 畜産物輸出特別支援事業 3 億円

鶏卵輸出準備分科会

・4 月 24 日、5 月 19 日に幹事会を行い、輸出先国調査等の今年度事業についての検討を行いました。今後は輸出関連調査の実施のために、輸出先国調査検討委員会を立ち上げ、夏場には輸出先国への調査等を行う予定です。

・現在の会員数 29 法人(6 団体、23 事業者)

・6 月 30 日(火) 午後に第 1 回通常総会を開催します。

・7 月 1 日(水) 午前に第 1 回輸出先国調査検討委員会を開催する予定です。

②組織対策委員会

5 月 13 日に平成 27 年度第 1 回組織対策委員会が開催され、平成 27 年度組織等が検討されました。

③他団体関係

5 月 8 日に日本成鶏処理流通協議会、5 月 12 日に日本種鶏孵卵協会の年次総会が開催され、日鶏協も出席しお祝いの挨拶を行いました。

④オムライススタジアム

5 月 16-17 日に東京のスカイツリー広場でカゴメ（株）主催のオムライススタジアムが開催され、全国からの 10 店がそれぞれのオムライスを競い合いました。結果的には東海地方代表の「洋食のことこと屋」さんの「トロトロ玉子のオムハヤチーズ ハンバーグ ON」がグランプリを獲得しました。この大会で、当協会よりの特別賞を北海道代表の「士別バーベキュー」さんに贈呈しました。http://www.kagome-cp.jp/vote_omusta/#area_1



日本養鶏協会賞受賞

北海道代表 士別バーベキュー

仔羊の赤ワイン煮オムライス

ラム肉も卵も北海道産のこだわりオムライス

⑤日鶏協島田（顧問）がラジオ出演し、たまごの良さを PR しました。

5/21 の放送を聞くことができます。TBS ラジオホームページ⇒荒川強啓のデ
ィキャッチの 5/21 版 [「みんな大好き！たまごのいま」](http://www.tbs.co.jp/radio/dc/20150521.html)

<http://www.tbs.co.jp/radio/dc/20150521.html>

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](http://www.jpa.or.jp)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目 6 番 1 6 号馬事畜産会館内（5 階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2015 年 5 月 22 日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)